

（応用言語学における） 研究とは何か？

投野由紀夫

課題1：自由連想

- 「研究」という言葉を聞いて、瞬間的に浮かぶ言葉を書き留めてみなさい
(3分)
- それぞれ2,3人でグループになり分かち合う
(5分)

課題2: 比較

- ハワイ大学: “research” の連想
 - Endless sometimes painful
 - Convincing experiment
 - Findings consistent
 - Unpredictable analysis
 - Publish statistics
 - Never perfect boring
 - Time consuming experts
 - Implications
- 自分たちのリストと比べてみよう。類似点・相違点は? どのような観点に分類できるか?

ポイント

- 「研究」には人によって異なる見方がある
- 「研究」は人・資料・テストの点数などを比べたりする
- 「研究」では同じこと、違うことが興味深かったりする

課題3:「研究」を定義する

- JD Brown (Univ. of Hawaii) 資料
- 1000人にアンケート調査
- “research” のさまざまな定義、説明を分析
- How would you define research?
あなたは「研究」をどのように定義しますか？
- これを自分なりにもう少し精密にやってみましょう

Brown (1992)

Brown (1992):

これらの結果を5つのカテゴリーに分類:

- 研究(リサーチ)のタイプ
- 研究のトピック
- 研究の目的
- 研究のプロセス
- その他、辛らつな答え

課題4: 分類

- 皆さんの書いた「研究」の定義と、Brown の分類を見て:
 1. 5つの分類のどれに入るか？
なぜそうだと思うか？
 2. 他の分類の定義を考え付きますか？

このへんを数人のグループでディスカッションしてみましょう

「研究」の設計をする

- 応用言語学における伝統的な研究手法を理解する
- 大きなカテゴリー：
 - Primary research (一次的研究)
 - Secondary research (二次的研究)

二次的研究

- Secondary source (二次資料) をもとにした研究
- 二次資料:
 - 他の研究者の本や論文など
- 2つのタイプ:
 - Library research (図書館文献研究)
 - Literature reviews (広く文献調査)

一次的研究

- 一次(研究者自らが直接取得した)データによるもの
- データ:
 - 生徒のテストの得点、授業観察、言語行動、質問肢の回答、など
- 下位分類:
 - a. 質的研究(qualitative research)
 - b. 調査研究(survey research)
 - c. 統計研究(statistical research)

質的研究

- 通例、数量的なデータ処理を行わない
- 質的研究手法を用いる
 - 観察 (observation)
 - 実地観察記録 (field notes)
 - 事例研究 (case studies)
 - 日記 (diaries) など
- インタビューや質問紙も適宜使用することもある

調査研究

- インタビュー (interview)
- 質問紙 (questionnaire)

統計研究

- 数量データを用いる → 量的 (quantitative)
- 下位分類:
 - 記述的研究 (descriptive research)
 - 探索的研究 (exploratory research)
 - 準実験研究 (quasi-experimental research)
 - 既存のグループ
 - 実験研究 (experimental research)
 - 無作為抽出したグループ

研究が行われる環境

- 研究上の自分の役割・機能
 - デザイナー、分析者、報告者、批評家、被験者
- 研究デザイン・枠組み上の文脈
 - 先ほどの研究方法の分類に類した違い
- その他(国際的、国家的、仕事上、研究機関上、地元の、個人的)さまざまな文脈

参考文献

- J. D. Brown & T. S. Rogers (2002) *Doing Second Language Research*. (OUP)

次回

- 科学的探究の考え方に迫ります
- 「わかる」とはどういうことか？
- 我々はどのようにして物事を知ろうとするのか？